

へき地の巡回指導による美術指導のための教育実践研究 —北海道釧路地域の事例—

佐々木 宰*・樋口 理沙**・更科 結希***

*北海道教育大学釧路校 **市立札幌大通高等学校（釧路町立遠矢中学校）

***北海道教育大学教育学部附属釧路中学校

A Practical Study for Art Education by Peripatetic Teaching in Rural Area : A Case of Kushiro Region, Hokkaido

SASAKI Tsukasa*, HIGUCHI Lisa** and SARASHINA Yuki***

*Department of Art Education, Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

**Sapporo Odori High School (Toya Junior High School, in Kushiro-cho, Hokkaido)

***Kushiro Junior High School, Faculty of Education, Hokkaido University of Education

概要

へき地・小規模の中学校では、美術や技術・家庭などの教科の免許を所持した教員が、近隣の複数校の当該教科を担当する「巡回指導」が行われている。平成30年度及び令和元年度の釧路町では、町立遠矢中学校の美術科担当教員（樋口）が、同町立別保中学校及び昆布森中学校の美術の指導にあたった。巡回指導は複数校の美術指導を一人で担当するために負担が大きい。共通題材を設定して学校間での作品交流を図ったり、カリキュラム・マネジメントを工夫したりすることによる効果が確認できた。また、附属学校との共通題材の設定、SNSによる情報共有等の大学や附属学校による地域的なサポートの試行が、巡回指導の美術指導に関する課題の克服に有効であることが確認できた。

1. 研究の背景、目的および方法

(1) 研究の背景と目的

北海道釧路地域（釧路市及び釧路管内町村）では、美術の免許を所持する教員が配置されている中学校は、地域全体の中学校数の約半数である。配置されていない学校では、「免許外教科担任」制度を使って、美術の免許を所持しない教員が美術の指導にあたる、いわゆる「免外」と呼ばれる実態がある。近年、こうした状況への対応策として、免許所持者が複数校を移動しながら指導する「巡回指導」が行われている。

佐々木・樋口・更科は、北海道釧路町立遠矢中学校、別保中学校及び昆布森中学校（以降、それぞれ遠矢中、別保中、昆布森中と記述する）の3校の巡回指導に従事する樋口の平成30年度の実践に基づいて、この特殊な勤務形態を通じた美術教育の可能性と問題点を示した¹⁾。巡回指導は、その変則的な勤務形態に由来する課題を多く残しているが、①題材配列をずらしながら各校の年間指導計画を立案するカリキュラム・マネジメントの手法の効果、②他校の生徒作品を提示しながら指導にあたることで小規模校のデメリットを解消する学びの在り方、③生徒の主体的な展示活動を通じた協働的な学びの在り方、についてのメリットを導く

ことができた。

本研究ではこうした実践研究の成果を発展させた令和元年度の樋口による実践をもとに、佐々木及び更科による教材研究やカリキュラム・マネジメントの改善のサポート体制の構築を試みる。すなわち、へき地における巡回指導の美術科指導及びカリキュラム・マネジメントと、それをサポートする地域的な体制構築の可能性を、1年間の実践研究から導くことが本研究の目的である。

(2) 研究の方法、意義、先行研究

北海道の美術教員の配置と免許外教科担任の問題に言及した報告には、工藤の発表がある²⁾。工藤によれば、北海道の免許外教科担任は、「技術」「家庭」「美術」の申請が突出して多く、へき地におけるこれらの教科指導に対する包括的な支援体制が必要であるという。へき地における美術教育の実践に関する先行研究は少なく、へき地の巡回指導を扱ったものは前述の佐々木・樋口・更科によるのみである³⁾。

北海道のへき地における教科指導の困難を解決するためには、工藤の指摘する包括的な支援体制構築についての継続的な研究が必要となろう。他方、へき地を対象にした継続的な教科教育研究は、なかなか行われていないのが現状

である。

さて、本研究の方法は、樋口の3校にわたる巡回指導による実践をもとに、巡回指導の課題とその克服のための指導や教材研究及びカリキュラム・マネジメントの工夫を検討するものである。基本的には、前年度（平成30年度）の指導実践を発展させて、カリキュラムの軌道修正を行ったものである。これを、巡回指導にあたる樋口だけでなく、本学美術科教育担当の佐々木、本学附属釧路中学校美術教諭の更科による支援体制の中で行ったことに、本研究の方法の独自性がある。現段階では限定的な試行段階にあるが、地域における包括的な支援体制構築のための知見が得られた。

2. 美術科担当教員の配置と巡回指導

(1) 釧路地域の美術科担当教員の配置

釧路地域で美術科を担当している教員には、免許所持者の正採用教員という通常想定される教員の他、免許所持者で期限付き（臨時採用）教員や時間講師などの場合もある。免許所持者が美術科を担当することは同じだが、雇用形態の違いによって、指導の継続性や長期的なカリキュラム・マネジメントの実施に若干の影響を残すことが考えられる。しかしながら、ここでは雇用形態の違いに関わらず、美術の教科を担当している免許所持者を「美術科担当教員」と呼ぶこととする。

また、本論において、この美術科担当教員の配置に関しては、ある学校に籍を置く教員が他校に出向いて美術科の指導をする巡回指導の場合を含める。つまり、本務校はもとより、巡回先の学校も美術科担当教員の「配置校」としてみなすこととする⁴⁾。

令和元年度（平成31年度）の釧路地域の中学校における美術科担当教員の配置状況を以下にまとめる（表1参照）。

まず、釧路市内の全中学校17校（市立15校、私立1校、国立大学法人附属1校）のうち、美術科担当教員の配置校は13校であるから、市内の約76%の中学校が美術科担当教員を何らかの雇用形態で配置している。

釧路管内（釧路振興局）町村に目を向けてみると、中学校22校（釧路町4校、標茶町4校、弟子屈町2校、白糠町3校、厚岸町3校、浜中町4校、鶴居村2校）のうち、美術科担当教員の配置校は7校であり、釧路管内町村の配置率は約32%となる。

釧路市と近隣町村を合わせた釧路地域全体の配置率は53.8%であり、この数値は前年度とほぼ同じである⁵⁾。釧路市内と近隣町村の配置率を比較すると、両者には倍以上の違いがある。近隣町村のへき地・小規模における教員配置の難しさから、こうした傾向は長く続いており、また早急に解決できる見通しもないのが現状である。無論、免許を所持した教員を配置できない状況が常態化することは、教科の免許制度の根幹に関わる重大な問題である。

表1 令和元年度の美術科担当教員の配置

区域	設置主体	学校数	配置校数	配置率(%)
釧路市内	釧路市立	15	11	73.3
	国立大学附属	1	1	100.0
	私立	1	1	100.0
	釧路市内合計	17	13	76.4
釧路管内 (釧路市を除く)	釧路町立	4	4	100.0
	標茶町立	4	0	0.0
	弟子屈町立	2	0	0.0
	白糠町立	3	1	33.3
	厚岸町立	3	1	33.3
	浜中町立	4	0	0.0
	鶴居村立	2	1	50.0
	釧路管内合計	22	7	31.8
合計		39	21	53.8

(2) 巡回指導の難しさと可能性

免許所持者を配置できないために、多くの学校では「例外」と呼ばれる免許外教科担任による対応を余儀なくされている。この問題を解消するための方策の一つとして、免許を所持する教員が複数の学校で指導にあたる「巡回指導」が行われるようになった。

令和元年度現在の釧路地域における美術科の巡回指導は、釧路町の筆者（樋口）の他には、釧路市内で1件（1人の教員が本務校と巡回校1校で指導）の事例がある。

前述のように巡回指導は、教員配置上の困難を解消するためのいわば変則的な措置である。現段階での巡回指導の大きな課題の一つは、特殊な勤務形態による担当教員の負担面であろう。

複数の学校での指導には、複数校分の年間指導計画、評価基準の設定、それぞれの生徒や環境に沿った授業準備が必要になる。教科のための予算も異なる場合が多く、教室環境の整備や、教員との協力関係の構築なども、異なる条件下で行わなければならない。これらは、担当授業時間数などの数値には現れにくい負担である。

通勤に関する負担も大きい。複数の学校を自家用車で巡回するため、単なる通勤とは異なる負担が生じる。移動距離や所要時間、気象条件など、特に北海道の冬期間の道路事情を考えると、相当の負担であろう。

担当授業時間数など、数値として示すことができる量的な負担とともに、数値化しにくい質的な負担については当事者の経験から把握していく必要がある。

他方、こうした課題を踏まえた上で、平成30年度の研究から、筆者（佐々木・樋口・更科）は巡回指導のメリットを次のようにまとめた⁶⁾。

①教員の指導上のメリット：一つの学校で用いた指導案や

生徒の反応をもとに、他校での指導を工夫したり、改善したりすることができる。

②教材研究及びカリキュラム・マネジメント上のメリット：複数校の題材の配列をずらしたり、一致させたりしながら年間指導計画を調整し、より効果的な題材とカリキュラム立案の手法を導くことができる。

③少人数を克服する生徒の学習上のメリット：制作した作品を他校へ巡回させることによって、生徒に参考作品や参考事例として示すことができる。生徒は他校の作品から刺激を受けたり、表現の多様さを学んだりすることができる。

④主体的で協働的な教育を展開する上でのメリット：上記の①～③を生かし、「制作・展示・対話」を通じた協働的な学習をより円滑に展開させることができる。自校及び他校の生徒に見てもらおうことを意識した表現活動や鑑賞活動が可能になった。

3. 実践校の状況とサポート体制

(1) 釧路町立遠矢，別保，昆布森中学校の美術実践

筆者（樋口）の勤務する遠矢中（本務校）、別保中及び昆布森中（巡回校）の状況は、前年度（平成30年度）から大きく変化してはいない（表2参照）。

生徒たちの美術に対する傾向も同様である。遠矢中では従来から美術科担当教員が配置されていたので、生徒たちの美術への関心や意欲、表現技術、創意工夫する力は総じて高い傾向にある。別保中学校では、造形表現の能力面では遠矢中と大きな差はないものの、自分の表現に自信を持っていない生徒が少なくない。昆布森中は、昆布漁地域の少人数・小規模校であるため、自分以外の多様な生徒の表現に触れる機会に限られるが、生徒1人あたりの作業空間や指導時間は充実している。自身をもって表現できる生徒は少ないが、主体的・意欲的な学習態度である。

さて、前年度（平成30年度）に、筆者（樋口）が初めて巡回による指導の計画を立案するにあたって、考慮した事項は次の通りであった。

- ①状況に応じて柔軟に対応できる指導計画とする。
- ②巡回を生かして、各校での指導の成果を時間差で提供できるように年間指導計画を工夫する。
- ③生徒作品や学習成果を、他校での授業で共有できるように題材や指導計画を工夫する。
- ④各校の要望、生徒の実態や環境に合わせて年間指導計画を工夫する。

これらを踏まえ、令和元年度では、「制作・展示・対話」のプロセスを重視したこれまでの実践研究の成果を生かし⁷⁾、表現と鑑賞の一体的な指導を意識しつつ、3年間を見通した美術教育の在り方を具体的に反映させたカリキュラム・マネジメントを試みた。

表2 令和元年度の3校の生徒数、学級数、教員数等の比較

		遠矢中	別保中	昆布森中
全校生徒数		114人	76人	26人
学級数		5(特支2)	5(特支2)	3(特支2)
教員数*		17人	13人	11人
免許外教科		技術・家庭	技術	技術・家庭
美術の授業時数**	1年	45(1.3)	45(1.3)	45(1.3)
	2年	35(1)	35(1)	35(1)
	3年	35(1)	35(1)	35(1)
	計	150(4.3)	115(3.3)	115(3.3)

*教員数には管理職を含んでいるが、時間講師は含んでいない。
**美術の授業時間数は各学年の年間の総時間数に学級数を乗じた。()内は、週あたりの単位時間数を示している。
データは、令和2年3月末現在（令和元年度）のものである。

(2) 釧路地域の美術教員サポートの試み

筆者（更科）は、釧路地域を含む東北北海道（道東）の美術教員の情報交換のためのSNSとして、「道東の図工・美術WEBミーティングボード」を公開した。これは、Padletという掲示板型の情報共有サービスを利用したものである。

ミーティングボードへのリンクを提供された参加者は、文章や画像を投稿でき、投稿された記事はちょうど壁面に張り付けられたメモのような形で表示される。記事の配置にはいくつかのパターンがあり、管理者である更科が必要に応じて、視覚的な効果を考えて整理をしている。

こうした視覚的な特徴をもつSNSであるため、Padletはアイデアの整理、トピックスの分類、特定のテーマの提示と議論などに活用されている。

さて、「道東の図工美術WEBミーティングボード」の参加者は、釧路地域の図画工作・美術担当の教員や関係者で構成される釧路造形教育研究会の会員が主となっている。これまで、同研究会の事業や附属釧路小学校及び中学校の研究会などのイベントの周知、研究内容の意見や感想、指導上の課題解決のヒント、授業実践の紹介などに活用されている（図1参照）。

SNSの活用は、特に広域に美術教員が点在するような釧路地域において有効である。距離や時間に拘束されずに、情報の共有を図ることができるからである。また、こうしたメディアへ参加することに対する心理的な抵抗は比較的少ないようである。地域で開催される研究大会に参加したり、分科会で発言したりすることよりは抵抗は少ないと考えられる。

本研究における筆者（樋口）のサポートにも、このPadletによる情報共有を活用した。自らの実践をPadletを通して紹介したり、他者の実践記録をもとに自らの授業に取り入れたりして、その結果を報告している。

特に、附属釧路中学校における実践授業の情報提供によっ

て、題材を共有することが可能になった点は特筆に値する。より詳細な情報については、直接的なやり取りや、研究授業参観、大学における打合せを要したが、情報を視覚的に相互に提供しあえるミーティングボードというSNSメディアは極めて有効である。

釧路地域における美術教育の研究は、前述の釧路造形教育研究会が主体となっており、筆者（佐々木、更科）もこれに関与している。釧路地域の図工・美術教員のサポートは、SNSも含めて、互いが同等の立場に立って情報交換をしたり、指導についての検討をしたりする、いわゆるピアサポートの形式が定着しつつある。経験豊富なリーダーが高所から後進を指導するのではなく、ベテランも新人も同じ立場で授業実践や、指導について議論しあえる相互サポート体制の構築を徐々に進めている。

4. カリキュラム・マネジメントの可能性と課題

(1) 3校の年間指導計画の基本方針

遠矢中、別保中、昆布森中の3校における令和元年度の年間指導計画立案にあたり、以下の基本方針を立てた。

- ①「制作」「展示」「対話」「鑑賞」を踏まえて題材を設定し、年間を通してこれらをバランスよく体験させる。
- ②1年次は「基礎基本」、2年次は「作品の作り方」、3年次は「自己表現」を中心に指導を行う。
- ③学校の環境、生徒の実態や学校に対する要望を、題材設定や指導に生かす。
- ④3校に共通の題材を設定し、制作過程の紹介や作品などを通して、生徒が交流できるようにする。
- ⑤生徒を展示作業に関わらせる。

①については、前年度のテーマであった「制作・展示・対話」をより一層進め、これに「鑑賞」を加えたものである。制作と鑑賞は対になって初めて意味をもち、展示と対話はその方法論として位置づけた。作品を作ることで完結して鑑賞しない行為は制作とは呼ばず、また制作体験の実感を伴わない鑑賞は本当の理解とはいいがたい。そのために、展示を通して他者に表現を示し、対話を通して相互に理解するという具体的な方法論を取り入れようとした。

②については、3年間を見通した学年進行の目安を、筆者（樋口）と生徒たちが明瞭に把握できるようにするため、簡潔な言葉で表した。高等学校での美術の開設・選択状況によっては、中学校が最後の美術教育の機会になる場合も少なくない。1年次に基礎的な能力を身につけ、2年次に表現の方法論を広げ、最終学年で自己表現について体験的に理解した上で卒業させたいと考えた。

③については、例えば少人数指導ができる昆布森中では、授業進度を早くできるため題材数を多く配置したり、展示や鑑賞の時間を多くとったりするなど、環境や実態に柔軟に対応することとした。

④については、3校に共通の題材を設定し、その実施については時期をずらして教材の準備の負担を減らしたり、

先行して実施した学校の生徒作品を、次の学校での参考作品としたりするなど、巡回指導であることを最大限に生かせる指導計画の立案を試みようとした。

⑤については、生徒自身による展示を通した空間構成の機会をできるだけ確保しようとした。実際には授業時間数の関係から十分な時間を確保することは難しいため、少人数で取り組むことができる学校での実践を中心とした。

(2) カリキュラム・マネジメントの課題とサポート

前述のような方針のもとに計画した令和元年度の3校の年間指導計画が表3～5である（表3～5参照）。

表3に示した第1学年の年間指導計画では、45時間の授業時間に13程度の題材を配置した。年度当初の4月及び5月までは3校ともほぼ同じ題材を同じ進度で実施するが、その後は各校の行事予定や時間割編成の都合、さらに生徒数や実態に即して、若干の時間差をおいて題材の実施時期を設定している。この時間差は、1校での実践結果を他校での指導に生かせるように意図的に設定している。

また、表3に◇で示した題材は筆者（更科）が附属釧路中学校で実践した題材を共有したものである。そのため、附属釧路中学校の年間指導計画との調整を踏まえて、時期を設定している。

表3の◆は作品展示・鑑賞及び作品交流を示す。昆布森中は少人数なので、授業時間内に展示や鑑賞の機会を多く取り入れ、校内での異学年での作品交流をした。また、遠矢中と別保中は、互いに作品を送り合い、作品を通した交流を行うようにした。

表4に示した第2学年の年間指導計画では、35時間の授業時数の中に5～8程度の題材を配置した。遠矢中と別保中の題材配列と時期をほぼ一致させる一方、昆布森中の題材の配列は、先の2校の真逆に設定した。これは、昆布森中での先行実践を、他2校の導入部分に反映させることで、異なる環境の生徒による協働的な学習を目指したためである。また、遠矢中と別保中は、生徒数や能力・技能などを含めた学習の実態が類似していることから、同時期に同じ題材を設定して生徒のアイデアノートや制作途中の作品を巡回させ、これらを通した交流をしながら作品を完成させていくことを目指した。

このほか、3校の題材実施の時期設定については、指導に要する材料や道具の確保と搬送の経路、他校の作品を展示・鑑賞するための時間差などを考慮している。

さて、表4に◆で示した作品展示・鑑賞のうち、3校ともわずかな時間差で取り組んだ「本物どっち？」という題材の3校分の作品の展示を別保中学校で行った。この題材も、附属釧路中学校の題材を共有したものである。

年度末にも遠矢中、別保中において3校分の作品交流を計画したが、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で実現することができなかった。

表5に示した第3学年の年間指導計画では、35時間の授業時間の中に4題材を配置した。第3学年では生徒がじっ

くりと表現に取り組むことができるように、題材数を減らして一つの題材にあてる時間数を多めにした。4題材のうち3題材までは共通としたが、それぞれの学校の生徒の実態や希望を踏まえて、遠矢中には「篆刻」、昆布森中には「水墨画」、別保中には「写真立て」の題材を加えた。

なお、表5に◇で示した「紙のランプシェード」という題材は、附属釧路中学校の題材を共有したものである。

このように、3校分の第1～3学年分の年間指導計画を立案するためには、かなりの労力を要する。第1～3学年の学習内容の系統性を踏まえつつ、3校分の生徒や学習環境の実態に合わせて関連性を持たせる必要があるからである。前述の通り、学校によって教材購入のための予算が異なることもあるため、3校で同じ教材を準備することが可能とは限らない。また、定期試験を求められる学校では、試験1回分が授業1回分とみなされるため、指導に当てられる時間が異なってくる。学校行事や様々な事情で、計画変更を求められることは全教科に言えることだが、3校分の関係を踏まえて年間指導計画を立案しているため、1校の変化が他校に影響してしまう。

このような状況で、各学年に1題材ずつ附属釧路中学校との共有題材を設定できたことは、かなりの負担軽減であった。今回の共有題材は、附属釧路中学校で先行実施したものを、遠矢中、昆布森中、別保中の実態や年間指導計画に合わせて調整したものである。Padletや直接の打合せを通して、題材研究や実践で得られたノウハウを地域の教員が共有できることが確認された。

5. 授業実践と生徒の反応

(1) 巡回による作品交流

前年度（平成30年度）の取り組みを通して、3校に共通題材を設定することの効果を確認していた。令和元年度では、他校との交流を踏まえた以下の共通題材を各学年に意図的に配置した。ただし、③～⑤については、新型コロナウイルス感染症の影響によって未実施である。

- ①「わたしの四季」（1年）
- ②「本物どっち？」（2年）
- ③「心でとらえたイメージ Feel Box」（2年）
- ④「写真立て」（2年）
- ⑤「墨の生み出す豊かな世界」（1年）

「わたしの四季」は、第1学年を対象とした絵画及びデザイン題材である。六角形の枠内を色彩構成するとともに、自分なりの季節感を表現するための工夫や描写等を加える、発展的な平面構成の題材である。既習内容の平面構成の学習内容や、モダンテクニックなどを、季節感というイメージの表現に応用することを主なねらいとしている（図2参照）。

完成した図形を切り取ってスチレンボードに貼り、裏面にマグネットをつけて黒板に掲示した。他校の生徒作品を黒板に示し、自分たちの作品と見比べたり、話し合ったり

する時間を設けた。作品の感想を「鑑賞カード」に簡潔に記述させ、他校の感想を見た振り返り記述をさせた（図3）。

他校の生徒作品と一緒に自分たちの作品を鑑賞する機会は、生徒に刺激を与えた。特に、生徒数の少ない別保中の生徒たちの記述には、「遠矢の人達が、みんな上手くてびっくりした。いろいろなモダンテクニックを使えてよかった。もっと上手になりたいと思った」、「いろいろな人を見て自分とは全然ちがう表しかたをしていてすごいと思った。みんなのいろいろな工夫を見て良かった」など、生徒数の多い遠矢中の作品の多様性や技術に対する強い関心が現れていた（図4～7参照）。

(2) 昆布森中における生徒による展示と鑑賞

昆布森中では、少人数のため学習環境を広く使うことができ、時間をかけた個別指導を行うことが可能である。同じ題材でも他校に比較して比較的少ない制作時間ですむので、その分を展示や鑑賞の時間にあてることができる。令和元年度は、「わたしの四季」（1年）、「生活を彩るデザイン」（1年）、「Feel Box」（2年）の題材において、生徒に作品の展示作業を体験させ、さらに自分の作品紹介をしながらの鑑賞活動を実践した。

展示にあたっては、作品を鑑賞するための展示であることを強く意識させ、床からの高さ、作品どうしの距離などを考えさせた。生徒たちには、隣接する作品との色合いやバランスなど、壁面全体を意識しながら展示する様子がかがえた。こうした活動は、第1学年が8人、第2学年が8人という少人数だから円滑に実施することができる（図8～10参照）。

展示後の鑑賞活動においても、それぞれの生徒が壁面に展示された自分の作品について積極的に話し、意見を交換することができた。また、校舎内に展示された作品群は、他の学年や教員を含めたコミュニケーションのきっかけとなった。美術の作品は表現物であり、表現物が人間のコミュニケーションを媒介ことはむしろ当然であるが、授業を通して生徒はそのことに気づいた。

(3) 遠矢中における生徒による展示と鑑賞

他方、遠矢中では人数が多いため、これまでは教員や美術部の生徒たちで展示作業を行うことが多かった。令和元年度では、生徒全員に展示活動を体験させ、作品を「他者にどのように魅力的に見せるか」を意識させた上で、鑑賞活動を行いたいと考えた。

「紙のランプシェード」（3年）という題材では、44人の生徒を6グループに分けて展示作業を行った。1階のホールに机を設置し、作品の配置や採光、キャプションなどの設置を行ったが、やはり人数が多いと指導が行き届かず、生徒一人ひとりに展示の意味を考えさせるには困難があった。ただし、この展示は、小学校6年生の中学校体験登校日に合わせたものであるため、来校する小学生という鑑賞者を意識させて行った（図11、12参照）。

「本物どっち?」(2年)という題材は、拾ってきた石とそっくりなものを粘土によって作る、というものである。形はもとより、色つやまで似せて本物と見分けがつかないほどにそっくりに仕上げる。この展示については、生徒34人を6グループに分けて、完成した作品を屋外の自然の中に紛れ込ませるように展示し、写真を撮影して記録するという形をとった(図13, 14参照)。

本物の石とそっくりに仕上げた粘土作品を校庭の草むらなどにおいた様子を互いに鑑賞して話し合いながら、その場の状況を撮影し、さらに撮影した写真について感想を述べ合うなどの様子が見られた。表現と展示と鑑賞が一体になるような動的な活動であったため、人数が若干多くても対応することができた。

(4) 釧路町4校合同美術展

筆者(樋口)が指導した遠矢中、昆布森中、別保中の3校に釧路町立富原中学校を加えた町内全4校の生徒作品展を開催した(図15~20参照)。

これは例年実施しているもので、令和2年度は令和2年2月1日から2月9日の期間に、釧路町内の公民館で開催された。美術の授業において制作された生徒作品320点が展示された。

この展示については、遠矢中と富原中学校の美術担当教員及び美術部の生徒が休日に行った。したがって、すべての生徒が展示作業に関わったわけではないが、出品作品はほぼ全生徒のものと言える。展示会場が遠矢中の校区にあるため、他の生徒が展示を見るためには困難が予想される。

しかし、町内に点在する各中学校の実践の成果を発表する場を設けることには意義がある。校内展示からより客観的に自分の作品を鑑賞することができると同時に作品の相互交流が可能になるからである。

5. まとめと課題

(1) 令和元年度の実践から

本研究は、前年度(平成30年度)の筆者(樋口)による巡回指導の初年度における実践を踏まえ、これを発展させてへき地の巡回指導におけるカリキュラム・マネジメントの工夫や教材研究を行いつつ、地域的サポートあり方と可能性を検討するものであった。

巡回指導2年目の実践開始に当たって気が付いたことは、前年度の取り組みによって、展示に対する意識が教員や生徒に定着していたことである。したがって、令和元年度の巡回指導による生徒作品の展示は、各学校ともに日常的なものとして受け入れられた。

校内での展示は、当初は生徒同士の鑑賞を促すために実施したが、展示された作品を介した生徒と教員とのコミュニケーションを促すことにもつながっていた。さらに、美術という教科に対する教員の理解を促し、巡回指導を踏まえたカリキュラム・マネジメントを間接的に教員に伝える

ことにもなっていた。すなわち、作品の展示は、生徒の学習状況とともに美術科におけるカリキュラム・マネジメントを可視化することにもなったと言える。このことを通して、学校全体で推進するカリキュラム・マネジメントの共通理解をいかに図っていくか、そのあり方についての示唆が得られた。

遠矢中、昆布森中、別保中の美術が巡回指導を前提としたカリキュラムであることと、その具体的な方法や生徒の学習状況や学習成果が生徒や教員に理解されれば、生徒や学校の実態についての情報共有が円滑になる。勤務日や成績評価などの日程に関しても、見通しをもって計画を立てられるようになった。

学校ごとの生徒の気質や生徒数の違い、教室環境や設備状況の違いもより詳しく把握できていたため、令和元年度では、カリキュラムはほぼ同じであっても、授業のスタイルや指導の仕方を使い分けた。例えば、少人数の昆布森中では個別指導によって教師が手をかけ過ぎないように配慮し、反対に人数の多い遠矢中では全体への指示を明確にし、グループ活動を多く取り入れて時間を短縮したり、個別指導の時間の確保を行ったりした。美術室がない別保中では、学習内容によって教室や技術室を使い分け、学習活動の区切りを明確にして複数の場所での指導を行うなどの工夫を取り入れた(図21参照)。

さて、巡回指導を前提とした美術のカリキュラム・マネジメントにあたっては、附属釧路中学校の実践事例の提供がきわめて有効であった。各学年に1題材ずつ附属釧路中学校との共有題材を設定し、先行実践の情報を踏まえ、遠矢中、昆布森中、別保中の学校や生徒の実態に即して適宜修正し、実践することができた。

巡回指導において新しい題材を取り入れることは、状況の異なる複数校での実践となるため、教師の立場としては心理的な抵抗がある。同じ地域で先行して実践された題材やそのノウハウを共有できることは、大きなサポートである。Padletは、情報共有のSNSとしてよく機能していた。大学及び附属学校による美術題材や指導、各種研修などの情報共有は、へき地においていわば孤立状態にある美術科担当教員にとって有効であることが確認できた。

(2) 課題と発展

これまで述べてきたように、地域的なサポートを踏まえたカリキュラム・マネジメントや教材研究は、「制作」「展示」「対話」「鑑賞」という活動を通して、巡回指導の美術教育に一定の可能性の示したといえる。

他方、巡回指導の課題は、やはりその変則的な勤務形態にある。まず、教員の帰属感的問題がある。巡回指導を成立させるためには、各校の教員の理解と協力が不可欠である。本務校での校務分掌、学校行事、学年業務などについては、巡回指導であることから一定程度軽減されている。しかし、本務校での勤務は週に3日、2校の巡回校での勤務はそれぞれ1日であるので、教員との関わりが希薄になりがちで

ある。巡回校はもとより、本務校に対する帰属意識をもつことが難しい。

また、巡回指導の担当者の確保という点も課題である。巡回指導をしながら学級担任となったり、校務分掌においてキャリアアップを図ったりすることは、現状では相当難しいであろう。変則的な勤務による負担を受け入れたまま、長期間にわたって巡回指導を担当する教員がどれほどいるのかは不明である。

巡回指導は、へき地における免許外担任の問題の解消策として取り入れられたが、その可能性と課題は未知数である。担当教員の教材研究やカリキュラム・マネジメント、指導方法の研究に関しては、へき地における教員の地域的なサポート体制を拡充することによって、課題を克服できる可能性がある。しかし、変則的な勤務形態による就労上の問題は、巡回指導担当教員が解決できる範囲を超えた課題である。実態調査に基づいた行政的な対応が必要とされよう。

注

- 1) 佐々木宰・樋口理沙・更科結希, 「へき地の巡回指導を利用した美術教育の実践研究: 北海道釧路町の3校の中学校における事例」, 『へき地教育研究』, 第74号, 2020, pp.19-33.
- 2) 工藤雅人, 「北海道における美術教員数の変容等から見る美術教育の課題」, 『第41回美術科教育学会北海道大会研究発表概要集』, 美術科教育学会, 2019, p.83, 及び同大会における研究発表配布資料。
- 3) 佐々木宰・樋口理沙, 「へき地校の美術教育における表現活動と鑑賞活動の一体化に関する実践研究: 少人数を生かした制作・展示・対話」, 『へき地教育研究』, 第72号, 2018, pp.87-95.
- 4) この用語の使い方は、教育行政における定義とは異なるだろうが、本論では免許所持者が美術科の指導にあたっている、もしくはあたっていない学校の状況に焦点をあてるため、便宜的に「配置」, 「配置校」という用語を用いる。
- 5) 前掲1) によれば、平成30年度は52.5%である。
- 6) 前掲1)
- 7) 前掲3) 及び前掲1)

参考文献

- ・免許外教科担任制度の在り方に関する調査研究協力者会議, 「免許外教科担任制度の在り方に関する調査研究協力者会議報告書」, 2018.
- ・更科結希, 「『表現』と『鑑賞』の一体化を図る中学校美術の題材の研究: 美術館と連携した『Answer Art』の実践を通して」, 美術科教育学会誌 『美術教育学』, 第41号, 2020, 167-179.

謝辞

本稿は、令和元年度学校・地域教育研究支援センター、へき地教育研究支援部門の研究助成を受けています。

本研究の遂行にあたり、釧路町立遠矢中学校、別保中学校、昆布森中学校の校長先生はじめ、教職員の皆様、生徒の皆様の多大な協力を得ています。ここにあらためて感謝の意を表します。

表3 令和元年度（平成31年度）遠矢中・昆布森中・別保中の美術（1年）年間指導計画

月	遠矢	45	月	昆布森	45	月	別保	45	
4	1 オリエンテーション	1	4	1 オリエンテーション	1	4	1 オリエンテーション	1	
	2 絵：『身近なものを描く』 ・制作①	3		2 絵：『身近なものを描く』 ・制作①	4		2 絵：『身近なものを描く』 ・制作①	4	
	3 ・制作②			3 ・制作②			3 ・制作②		
5	4 ・トリミング ・鑑賞	3	5	5 ・トリミング ・鑑賞	2	5	5 ・トリミング ・鑑賞	4	
	6 デ：平面構成基礎Ⅰ『色の基礎知識』 ・色の基礎知識（資料集）			6 デ：平面構成基礎Ⅰ『色の基礎知識』 ・色の基礎知識（資料集）			6 デ：平面構成基礎Ⅰ『色の基礎知識』 ・色の基礎知識（資料集）		
	7 ・色相環 ・グラデーション			7 ・色相環			7 ・グラデーション		
6	8 工：『陶芸①』 成形	2	6	8 工：『陶芸①』 成形	2	6	8 工：『陶芸①』 成形	2	
	9 期末テスト	1		9 絵・デ：『具象から抽象へ』 ・鑑賞：カンディンスキー・モダンテクニック	2		9 工：『陶芸②』 絵付け	2	
	10 デ・工：『アイヌ文様を使った切り紙』 ・デザイン ・制作	2		10 絵・デ：平面構成基礎Ⅱ 『わたしの四季』	6		10 デ・工：『アイヌ文様を使った切り紙』 ・デザイン ・制作	3	
11	11	11	11						
7	12	3	7	12	1	7	12	2	
	13 絵・デ：『具象から抽象へ』 ・鑑賞：カンディンスキー			13			13		13
	14			14			14		
8	15	2	8	15	2	8	15	3	
	16 工：『陶芸②』 絵付け			16			16		16
	17			17			17		
9	18	7	9	18	2	9	18	7	
	19 絵・デ：平面構成基礎Ⅱ 『わたしの四季』			19			19		19
	20			20			20		
10	21	3	10	21	7	10	21	7	
	22			22			22		
	23			23			23		
11	24	5	11	24	1	11	24	8	
	25			25			25		
	26			26			26		
12	27	2	12	27	6	12	27	8	
	28			28			28		
	29			29			29		
1	30	1	1	30	1	1	30	2	
	31			31			31		
	32			32			32		
2	33	5	2	33	6	2	33	8	
	34			34			34		
	35			35			35		
3	36	2	3	36	1	3	36	2	
	37			37			37		
	38			38			38		
4	39	3	4	39	6	4	39	2	
	40			40			40		
	41			41			41		
5	42	1	5	42	6	5	42	2	
	43			43			43		
	44			44			44		
6	45	3	6	45	3	6	45	2	
	46			46			46		
	47			47			47		

絵…絵画、デ…デザイン、塑…塑像、工…工芸

◇北海道教育大学附属釧路中学校 更科教諭 の題材を共有。

表4 令和元年度（平成31年度）遠矢中・昆布森中・別保中の美術（2年）年間指導計画

月	遠矢		35	月	昆布森		35	月	別保		35	
4	1	オリエンテーション	1	4	1	オリエンテーション	1	4	1	オリエンテーション	1	
	2	絵：『スケッチ』 版：『刷って出会う美しさ』			2	デ：平面構成演習『feel box』 ・鑑賞「抽象画」			2	絵：『スケッチ』 3 版：『刷って出会う美しさ』		
	3	・キュビズムとピカソ（鑑）			3	・配色・下描き			4	・キュビズムとピカソ（鑑）		
5	4	・一版多色刷り ・構成	8	5	4	・着彩	6	5	5	・一版多色刷り ・構成	10	
	5	・下書き			5	・着彩			6	・下書き		
	6	・彫り			6	◆作品展示・鑑賞			7	・彫り		
6	7	・刷り	8	6	7	・鑑賞・まとめ	3	6	8	・刷り	10	
	8				8	デ：平面構成『色の冒険者たち』			9			・彫り
	9				9	・グラデーション			10			・鑑賞・まとめ
7	10	期末テスト	2	7	10	・着彩	4	7	11	◆鑑賞	3	
	11	・鑑賞			11	◇塑：『本物どっち??』			12	デ：平面構成『色の冒険者たち』		
	12	デ：平面構成『色の冒険者たち』 ・グラデーション・着彩			12	・モチーフ探し・制作			13	・グラデーション		
8	13	◇塑：『本物どっち??』	4	8	13	・制作	11	8	14	・着彩	4	
	14	・モチーフ探し・制作			14	・鑑賞			15	◇塑：『本物どっち??』		
	15	・制作			15	工：『生活の場を飾る写真たて』			16	・モチーフ探し・制作		
9	16	◆作品展示・鑑賞	9	9	16	・基礎彫り	10	9	17	・制作	10	
	17	工：『生活の場を飾る写真たて』			17	・アイデアスケッチ			18	◆作品展示・鑑賞（遠矢・昆布森・別保）		
	18	・基礎彫り			18	・アイデアスケッチ			19	工：『生活の場を飾る写真たて』		
10	19	・アイデアスケッチ	9	10	19	・彫り	11	10	20	・基礎彫り	10	
	20	・彫り ・塗装			20				・アイデアスケッチ	21		・アイデアスケッチ
	21				21				・彫り ・やすりかけ	22		・彫り
22	22		・彫り	23	・彫り							
23	23	24		・彫り ・やすりかけ								
11	24	・彫り ・塗装		9		11	24	・塗装	10	11	25	・彫り
	25		25		・鑑賞		26	・彫り				
	26		26		版：『刷って出会う美しさ』		27				・塗装	
12	27	期末テスト	1	12	27	・キュビズムとピカソ（鑑）	10		12	28	・鑑賞	1
	28	工：『生活の場を飾る・写真たて』			28	・一版多色刷り ・構成		29		デ：『Op art』		
	29	・塗装 ・鑑賞			29	・下書き		30		デ：平面構成演習『feel box』		
1	30	デ・絵：『My favorite Shose』	1	1	30	・彫り	10	1	31	デ：平面構成演習『feel box』	6	
	31	デ：平面構成演習『feel box』			31	・彫り			32	・鑑賞「抽象画」		
	32	・鑑賞「抽象画」			32	・刷り			33	・配色・下描き		
2	33	・配色・下描き	6	2	33	・彫り	3	2	34	・着彩	6	
	34	・着彩			34	◆作品展示・交流			35	◆作品交流 ・まとめ		
	35	◆作品交流 ・まとめ （遠矢中・別保中・昆布森中）			35	昆布森1年⇔昆布森2年			35	（遠矢中・別保中・昆布森中）		
3	期末テスト											

絵…絵画、デ…デザイン、塑…塑像、工…工芸

◇北海道教育大学附属釧路中学校 更科教諭 の題材を共有。

表5 令和元年度（平成31年度）遠矢中・昆布森中・別保中の美術（3年）年間指導計画

月	遠矢		35	月	昆布森		35	月	別保		35
4	1	オリエンテーション	1	4	1	オリエンテーション	1	4	1	オリエンテーション	1
	2	絵：『デッサン・自画像』			2	工：『篆刻・私の証』			2	絵：『デッサン・自画像』	
	3	・導入			3	・アイデアスケッチ			3	・導入	
5	4	・制作	7	5	4	・制作	7	5	4	・制作	9
	5				5				5		
	6				6				6		
6	7	・振り返り ・鑑賞	1	6	7	・鑑賞	10	6	7	・制作	12
	8				8	8					
	9				9	9					
7	10	工：『篆刻・私の証』	6	7	10	・アイデアスケッチ	8	7	10	・振り返り ・鑑賞	1
	11	・導入			11	・下描き・転写			11	デ：『シマウマデザイン』	
	12	・アイデアスケッチ			12	・削り			12	デ・工：『生活を場を飾る・写真たて』	
8	13	・制作	13	・削り	13		・基本の彫り ・アイデアスケッチ				
	14	・振り返り	14		14						
9	15	・鑑賞	9	8	15	・着色	10	8	15	・制作（彫り・塗装）	12
	16	デ：『シマウマデザイン』			16				16		
	17	◇デ・工：『紙のランプシェード』			17				17		
10	18	・試作	9	9	18	絵：『水墨画・墨の生み出す世界』	8	9	18	・制作（彫り・塗装）	12
	19	・本制作			19				19		
	20				20						
11	21	・タイトル記入	10	10	21	・基礎①色「○△□」	9	10	21	・鑑賞まとめ	12
	22				22	22					
	23				23	23					
12	24	・鑑賞	1	11	24	自由制作	9	11	24	デ・工：『アートグラス』	12
	25	期末テスト			25				25		
	26	デ・工：『アートグラス』			26				26		
1	27	・アイデアスケッチ	10	12	27	◇デ・工：『紙のランプシェード』	9	12	27	・下描き・転写	12
	28	・削り			28	・試作			28	・制作	
	29				29						
2	30	・削り	10	2	30	・本制作	9	12	30	・削り	12
	31				31						
	32				32						
3	33	・着色	10	3	33	・タイトル記入	9	2	33	・着色	12
	34				34						
	35				35						

絵…絵画、デ…デザイン、塑…塑像、工…工芸
 ◇北海道教育大学附属釧路中学校 更科教諭 の題材を共有。

表6 令和元年度の展示計画（2月27日以降は新型コロナウイルス感染症による臨時休校のため未実施）

		生徒による展示	美術科教員による展示	他校との作品交流
月	行事	遠矢中 (1Fホール・階段壁面)	昆布森中 (階段壁面・教室前掲示板)	別保中 (玄関・階段壁面)
4	入学式 参観日	2年 『水墨画・ぶどう』 美術部 『手と道具』	美術科 『福田繁雄』	3年 『日本の美意識』
5		1年 『身近なものを描く』 美術科 ◇マステ・ウォールアート『紙飛行機』	1年 『身近なものを描く』	美術科 ◇マステ・ウォールアート『紙飛行機』
6		美術科 『写真』	1年 『わたしの四季』 ※生徒による校内展示 2年 『Feel Box 心のカタチ』 ※生徒による校内展示	美術科 『福田繁雄』
7	参観日	合同制作 1年 『切り紙・四季を彩る』	美術科 ◇マステ・ウォールアート『紙飛行機』	
8		美術科 『福田繁雄』 美術科 黒板アート	巡回展示	
9	◆学校祭(昆布森) 遠矢小・図工乗入れ授業	美術科 モビール『秋のカタチ』 美術科 切り絵・紅葉 1年 『わたしの四季』 3年 『しましまデザイン』	全学年 学校祭・展示 巡回展 鑑賞交流【遠矢⇄別保】	合同制作 1年 『切り紙・四季を彩る』 美術科 切り絵・紅葉 1年 『わたしの四季』 美術科 マステ・ウォールアート『秋』
10	◆学校祭(遠矢・別保) ◆公開研究大会(昆布森中)	全学年 学校祭・展示 マステ・ウォールアート『折り鶴』 2年 『色の冒険者たち』 2年 ◇『本物どっち?』 鑑賞(遠矢中のみ)	巡回展示 合同制作 1年 『切り紙・四季を彩る』 鑑賞交流【遠矢・昆布森⇄別保】	全学年 学校祭・展示 2年 『色の冒険者たち』 三校 2年 ◇『本物どっち?』 三校による鑑賞交流(遠矢中・別保中・昆布森中)
11	小学生登校日(遠矢中) 釧路町書写・美術展	釧路町書写・美術展入賞作品 美術科 黒板アート	1年 ◇『生活を彩るデザイン・エコバック』 3年 『白と黒の生み出す世界』	美術展入賞作品
12	参観日・三者面談	3年 ◇『紙のランプシェード』	1年 『水墨画・ぶどう』 ※生徒による校内展示	
1		2年 冬休み課題『My favorite shose』 1年 ◇『生活を彩るデザイン・エコバック』 1年 モビール『雪』	1年 『水墨画・竹』	
2	入学説明会 参観日	釧路町四校合同美術展「Our place」 2/1(土)~2/9(日)		
		2年 『生活の場を飾る写真たて』 1年 冬休みの課題『手のスケッチ』	1年 『水墨画・竹』	1年 『一版多色刷り・何が描かれている?』
新型コロナウイルスにより 2/27(木)~3/24(火) 臨時休校				
3	卒業式	美術科 モビール・装飾『桜』 美術科 黒板アート 1年 『水墨画・ぶどう』 2年 『Feel Box 心のカタチ』 2年 『この線なに?』 3年 『アートグラス』	3年 ◇『紙のランプシェード』 鑑賞交流【遠矢⇄昆布森】 鑑賞交流【遠矢・別保⇄昆布森】 2年 『版画・刷って出会う美しさ』 鑑賞交流【昆布森1年⇄昆布森2年】 ※生徒による校内展示 1年 『版画・何が描かれている?』	美術科 モビール・装飾『桜』 3年 『アートグラス』 2年 『Feel Box 心のカタチ』

◇ は北海道教育大学釧路附属中学校 更科教諭 との共有題材である。

※別保中…学校事情により校内展示の制限あり



図1 Padletによる道東の図工・美術WEBミーティングボード

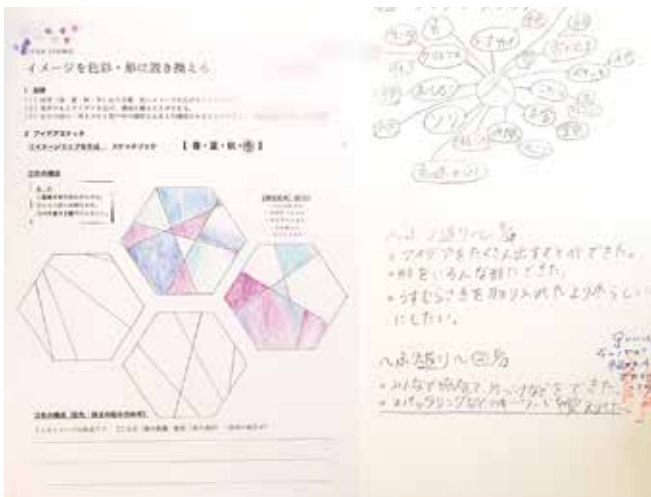


図2 「わたしの四季」のワークシート



図3 「わたしの四季」遠矢中での鑑賞 グループ活動



図4 「わたしの四季」遠矢中での3校の作品鑑賞



図5 「わたしの四季」別保中での3校の作品鑑賞



図6 「わたしの四季」別保中での3校の作品鑑賞



図7 「わたしの四季」別保中での3校の作品鑑賞



図8 「わたしの四季」昆布森中での展示図



図9 「わたしの四季」昆布森中での鑑賞



図10 「生活を彩るデザイン」昆布森中1年による展示



図11 「紙のランプシェード」(3年)遠矢中での展示



図12 「紙のランプシェード」(3年) 遠矢中での展示 (小学生登校日)



図13 「本物どっち？」(2年) 遠矢中での展示・鑑賞



図14 「本物どっち？」 遠矢中での展示・鑑賞



図15 釧路町4校合同美術展の展示作業



図16 釧路町4校合同美術展の展示



図17 釧路町4校合同美術展の展示



図18 釧路町4校合同美術展の展示



図19 釧路町4校合同美術展の展示



図20 釧路町4校合同美術展の展示



図21 別保中の授業風景（技術室での指導）